

数珠について

数珠は念仏などの回数を数えるだけに使っていた道具でしたが、今では、仏様への信仰心を象徴するもの、また仏様の世界と自分自身をつなぐものという意味合いがあります。一人一人のお守りになる仏具として、貸し借りせずに自分専用の数珠を持つと良いでしょう。

知っておきたい！ 冠婚葬祭豆知識

数珠の種類について

数珠には大きく分けて、各宗派の正式な数珠とされる「本式数珠」と、宗派を問わず使用できる「略式数珠」の2種類があります。それぞれに男性用と女性用があり、兼用はありません。本式数珠は、宗派によって形も様々です。ご自身の宗派がわかる方は、「本式数珠」を持つことをお勧めします。他宗派の葬儀の場で、自分の宗派の本式数珠を使うことは失礼には当たりません。実家や親戚の葬儀や法事、お墓参りの時は本式数珠を使い、お付き合いで参列する場合は略式数珠を持つなど、場面によって使い分けをしても構いません。

真言宗の本式数珠

正式な数珠は振分(ふりわけ)数珠と呼ばれ、宗派問わず(日蓮宗以外)用いることができるとされています。お遍路は真言宗の開祖である弘法大師と関わりが深いため、振分数珠を使うことが多いです。



浄土真宗の本式数珠

珠の数や形状に決まり事が少ないのが特徴です。男性用は、略式数珠と基本的に同じです。紐房が望ましいとされていますが、厳密な決まりはありません。女性用は、門徒(もん)数珠という二連数珠です。房が4本付き、見た目も美しい数珠です。



日蓮宗の本式数珠

法華(ほっけ)数珠と呼ばれており、裏房が三つの房でできているのが特徴です。房の色に決まりはありませんが、日蓮正宗の方は白い房のものをお選びください。



浄土宗の本式数珠

正式な数珠は「日課念珠」と呼ばれ、二つの輪が繋がった特徴的な形状です。念仏の回数を数えるために玉が繰りやすくなっています。男性用のサイズは九寸で、玉の大きさによって「三万浄土」や「六万浄土」と呼びます。女性用のサイズは基本的に八寸です。



曹洞宗の本式数珠

正式な数珠は看経(かんきん)念珠と呼び、金属の輪が付きます。男性用と女性用では、房の形状と玉の大きさが異なります。他宗派の方でも座禅を組む際に持つ方もおられます。



臨済宗・黄檗宗の本式数珠

曹洞宗と基本的に同じ形の看経(カンキン)念珠ですが、金属の輪がありません。男性用と女性用では、房の形状と玉の大きさが異なります。男性用には紐房が、女性用には頭付房が付いています。他宗派の方でも、座禅を組む際に持つ方もおられます。



天台宗の本式数珠

お経の回数が数えやすいそろばんのような玉が特徴です。房は基本的には白い梵天の房で、色は様々です。天台宗の数珠は、一般的に男性用の「九寸サイズ」、女性用の「八寸サイズ」、僧侶が持つことが多い「大平天台」の3種類あります。

